

2023/10/17

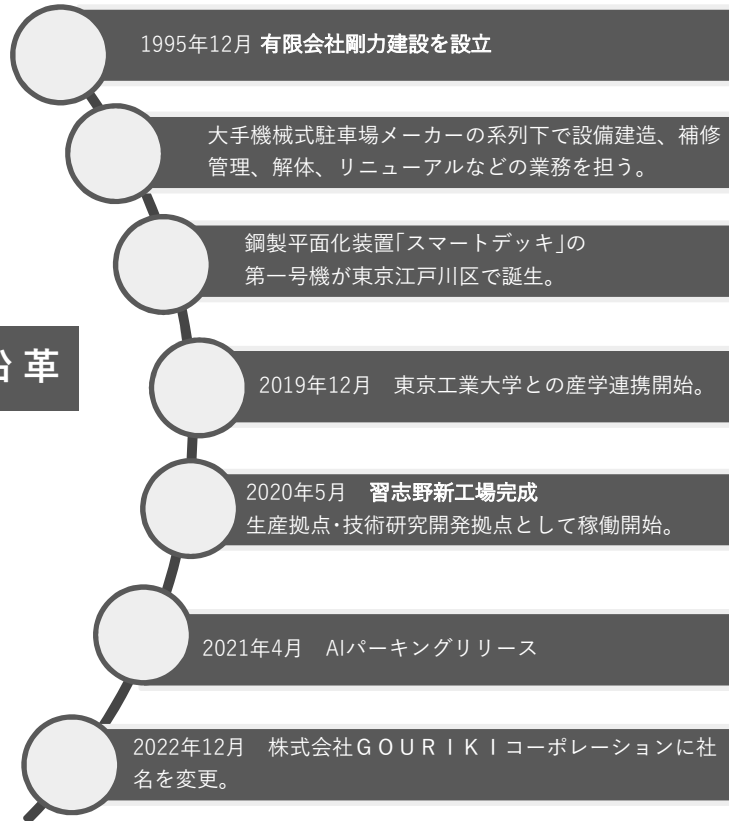
時間貸し駐車場DXについて

日時：10月17日(火) 9:30～12:00

場所：中央合同庁舎3号館6階国交省都市局局議室

会社紹介

会社沿革



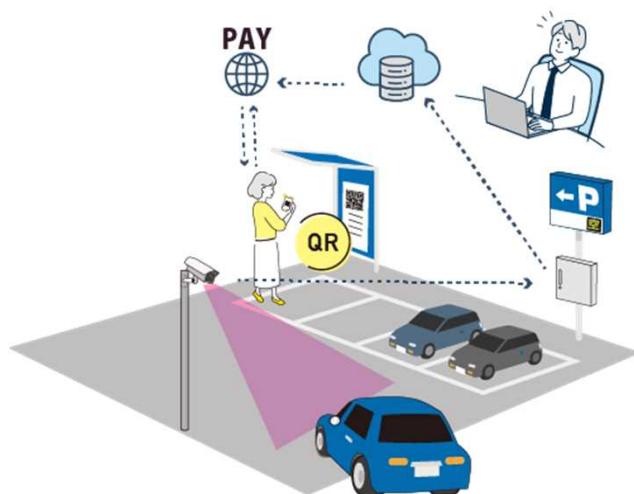
創業以来、機械式駐車場の設置、解体、メンテナンスに携わってきた機械式駐車場についての知見、技術、人材が強みです。

会社名	株式会社 GOURIKIコーポレーション
所在地	[本社] 〒134-0085 東京都江戸川区南葛西6-13-14 TEL:03-3877-0993 FAX:03-3877-0997 [工場] 〒275-0001 千葉県習志野市東習志野7-1-1 [大阪営業所] TEL:06-4309-6160 FAX:06-4309-6163
代表取締役	山崎 智博
設立	1995年12月12日
資本金	80,000,000円
従業員数	25名
業務内容	機械式駐車場平面化工事業務全般とそれに関わる各種付帯工事・解体作業

AI Parking エーアイパーキング

「AI Parking」は、キャッシュレス決済とリアルタイムでの入出庫検知が特徴で、利用者と運営者の双方にメリットをもたらします。AIとクラウド技術を活用して、駐車場の入出庫管理と料金精算を効率化する先進のシステムです。このことにより、従来必要とされた精算機や逃避防止装置が不要となりました。

システム図と特徴



「AI Parking」はフラップやセンサー、精算機などこれまで必要とされてきた設備を大胆に削減。各車室の検知・課金はIPカメラとエッジPCに集約、情報は即座にサーバーに送られリアルタイムで可視化される。イニシャルコストの抑制はもちろん、ランニングコストも大幅削減、駐車場運営効率を飛躍的に高める革新的スマート駐車場システムです。

従来の駐車場

- ゲート、センサーによる入出庫管理
- 精算機での現金・カード決済

Alparking

- IPカメラによる車両・ナンバー認証
- QRコード読み込みでの決済

2つの認証システム

1

車両ナンバー認識システム



入り口周辺にIPカメラを設置。このカメラが車両番号（ナンバープレート）を読み取る。AIカメラの基本性能に加え、カメラ近くに取り付けられている補助発光用LEDにより車両ナンバーを正確に読み取る。これにより入場ゲートやロック板不要のシンプルな運営が可能となる。

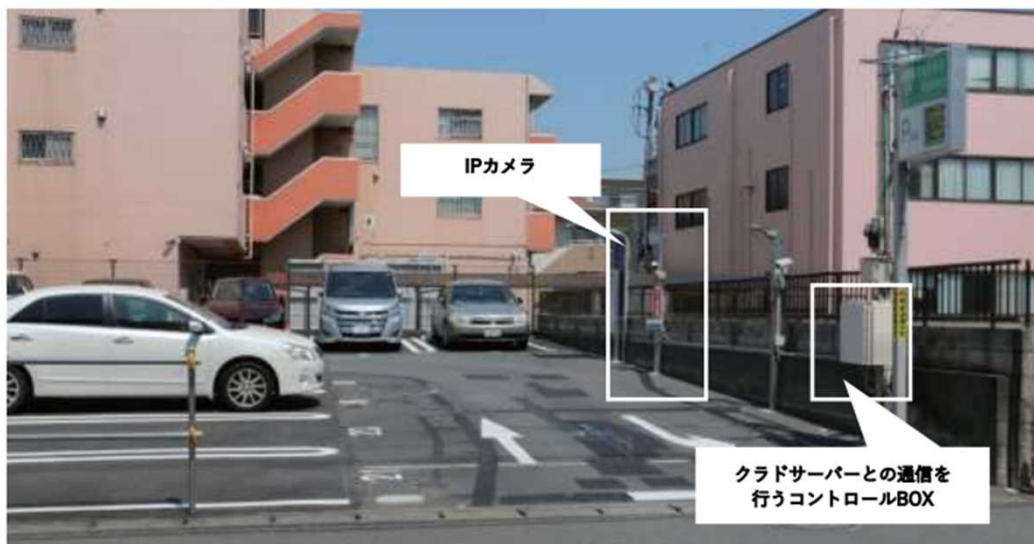
2

車室認証システム



車室後方のポールに1～8車室に1台程度の割合でIPカメラを設置。このカメラにより車両入庫を検知すると同時に課金が始まる。カメラの撮影データは場内に設置されたコントロールBOXを介して光回線でクラウドサーバーとやり取りされる。

認識率の高い「IPカメラ」



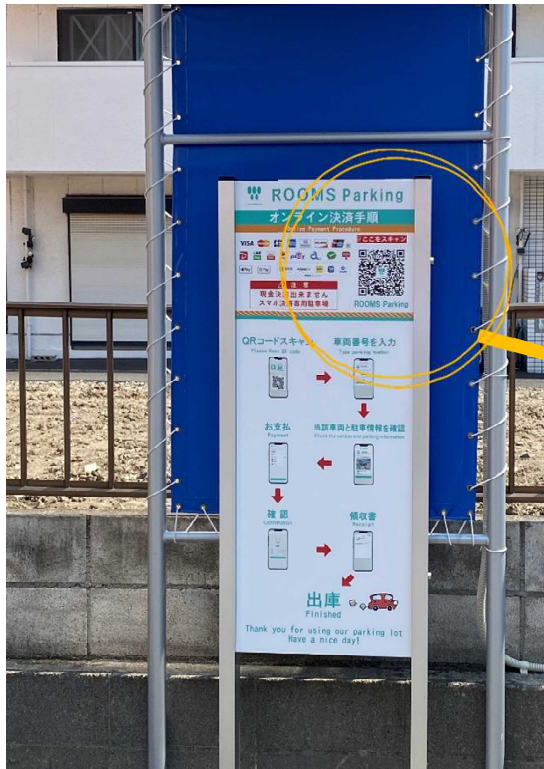
ナンバープレートを瞬時に自動認識して記録する「車番認識装置」と「事前精算システム」により、出庫時の混雑を軽減します。また、入出庫の不正防止や防犯にも威力を発揮しています。

IPカメラによる「ナンバー認証」システムは、独自開発のアルゴリズムにより高い認識精度を実現。

条件の悪い環境でも、高精細カメラによりナンバープレート内に記載されたテキスト情報を瞬時に読み取ることが可能です。

- 例) ○雨天・降雪等の悪天候
○図柄・アルファベットを含む特殊なナンバープレート

「Alparking」の利用方法



スマホで二次元バーコードを読み取り、画面の案内に沿って進めば簡単に決済が完了します。会員登録等も不要で初めてでも戸惑うことはありません。

1円パーキング



2022年10月には業界初の「1円パーキング」を新規オープンしました。

「1円パーキング」は、上述の「AI Parking」システムによって実現した、1分1円で利用できる駐車場サービスです。利用者は、必要な時間だけ駐車場を利用し、その分だけの料金を支払うことができます。

現金での決済を無くすことで、「1円パーキング」のような革新的な駐車場サービスが実現しています。このことにより、駐車場の利用がよりフレキシブルで効率的になり、利用者の経済負担の軽減と駐車場運営の効率化が期待されます。

産学連携による技術力

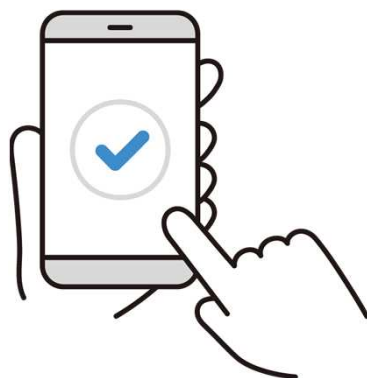


未来への貢献

スマートフォンの登場以来、消費者の手元で買い物や予約、決済、検索が実現するようになりました。

私たち駐車場に係わる事業者も、タブレットによる駐車場予約や決済の実現を可能にすることが出来ました。

この事により従来必要とされた設備機器が不要となり、バリアフリーの実現、SDGsへの貢献や取り組みが可能となりました。



3つの視点

1. キャッシュレス社会への取り組み

2024年7月には新紙幣が導入されます。
この事を機に、これからの社会では益々
キャッシュレス化が進むと考えられます。
この件に関しましては既に対応済で、
キャッシュレスユーザーからは繰り返し利用の
支持を得ています。

2. 電気自動車への対応

自動車の世界では内燃機関から電気自動車への
パラダイムシフトが進行しております。
将来的に電気自動車が普及した際には、
時間貸し駐車場においても充電設備と従量課金制度
が当たり前になるような環境が予想されます。

3. Web3.0が実現する未来社会

MaaSが実現する社会は今とは全く次元が異なる環境です。
AIや自動運転が組み合わさり、電気自動車のバッテリーが社会インフラとしての機能を持つようになります。
交通弱者や地域性のハンデが解消され、運転免許さえ必要としなくなるかも知れません。
センサー・半導体・システムの重要性が益々高まることが予想されます。

デジタル化社会の到来で、双方向で大容量の情報通信が可能となりました。
AIの登場が社会変化を高速化し、私たちの職を奪う可能性も出てきました。
私たちは未来を悲観すること無く、どの様な社会が到来しても対応できるように、研究開発を怠らない企業
で在りたいと思います。